



あなたのお家のお内仏は
正しい飾り方が
なされてますか
右の写真と
照らし合せて
正しい飾り方を心がけましょう。

- ① 一本尊 (ごほんぞん)
真宗の一本尊は阿弥陀如来です。
- ② お脇掛 (おわきがけ)
ご本尊に向かって右側に十字名号「佛命尽十方無碍光如来」か、親鸞聖人のご影像をおかけします。
- ③ お脇掛 (おわきがけ)
ご本尊に向かって左側に九字名号「南無不可思議光如来」か、蓮如上人のご影像をおかけします。
- ④ 金灯籠 (きんとろう)
お宮殿の両側に1対するし、ご本尊のお姿を明るく照らすために用います。
- ⑤ 環珞 (ようらく)
重い法要の時に用います。
- ⑥ 輪灯 (りんとう)
朝夕のおつとめの時点灯します。
- ⑦ 上卓 (うわじょく)
ご本尊の前、須弥壇の上に置く卓です。仏器・華瓶・火舎香炉を置きます。
- ⑧ 仏器 (ぶつき)
お仏飯を盛る器をいいます。朝のおつとめの前にお供えし、正午にはお下げいたします。

- ⑨ 華瓶 (けびょう)
浄水を入れる器で上卓の上に対置します。華瓶には水を入れ櫛をさします。
* 華瓶以外の器 (コップや湯のみ茶わん) に水やお茶を入れてお供えすることはいいたしません。
- ⑩ 火舎香炉 (かしゃこうろ)
上卓の中央に置く香炉で、焼香のために用います。向きは足の一本が正面になります。
- ⑪ 打敷 (うちしき)
前卓と上卓におかけする三角の織物で、お正月・お盆・お彼岸・報恩講・年忌法要などの重い法要の時のみ用います。
- ⑫ 供筒 (くげ)
お華束 (小餅) をのせるもので、普段は用いず、重い法要の時のみ用います。
- ⑬ 三具足 (みつくそく)
鶴亀燭台・花瓶・香炉のことを三具足と呼び、原則としてお内仏 (お仏壇) の中で使用するものです。
- イ 鶴亀燭台 (つるかめしょくだい)
亀の尾の先が手前に向くようにおき、蓮輪は実が正面になるようにします。
- ロ 花瓶 (かひん)
花器、花だてで八藤紋を内側に向けておきます。ご本尊がかくれぬように立てます。生花を用い造花は使用いたしません。
- ハ 土香炉 (つちこうろ)
陶器の香炉です。向きは足の一本が正面になります。線香を香炉の大きさに応じて数本折り、火の付いた方を左に向け灰の上に横にしておきます。
- ⑭ 木蟬 (もくろう)
* 線香をたてて使用することはいいたしません。



- ⑮ 前卓 (まえじょく)
須弥壇の前に置く卓です。三具足 (鶴亀燭台・香炉・花瓶) を置きます。
- ⑯ 香盒 (こうごう)
お香を入れる入れ物です。
- ⑰ 法名軸 (ほうみょうじく)
法名軸はお内仏 (お仏壇) の左右側面におかけします。
* 真宗では正式には法名軸を用い、位牌を使用することはいたしません。
- ⑱ 見台・過去帳 (げんだい・かこちょう)
過去帳には亡くなられた方の法名・亡くなった年月日を記します。
- ⑲ 鈴 (りん)
おつとめをする時に用いる「かね」を鈴といいますが、おつとめをする時以外は一切打ちません。
- ⑳ 撥 (はち)
鈴を打つ棒で、おつとめの時以外は鈴の中に正面を向けておきます。
- ㉑ 鈴台 (りんだい)
鈴を置く台を鈴台といい、大谷派では四角形の鈴台を用い金襴輪 (ふとんではなく) の上に鈴を置きます。
- ㉒ 和讃箱 (わさんばこ)
おつとめに使う「正信偈」と「三帖和讃」を入れておく箱です。
- ㉓ 和讃卓 (わさんじょく)
和讃箱をのせる卓です。
- ㉔ 御文箱 (ごもんばこ)
御文を入れておく箱です。

お仏壇の飾り方は、お仏壇の形式・サイズ・お仏具の種類及び地方の習慣により異なる事があります。必ず当店にお問合せ下さい。